

芸術

デッサン

[出題方針]

本学部はアドミッションポリシーに掲げる教育理念の実現に資する人材を選抜するため、実技試験において美術・デザイン領域の学修に必要とされる基礎的描写能力、対象への観察態度、ならびに造形的思考の適性を総合的に評価いたします。

受験生が対象事象に対し真摯かつ倫理的に向き合い、その把握・認識の過程を自らの判断に基づき構成および表現へと展開し得る資質を重視いたします。また、課題に対して自立的に取り組み、課題発見および問題解決に至る思考の柔軟性と修得意欲を確認することを目的いたします。

以上の観点に基づき、実技試験では、基礎的素養とともに、本学部における教育課程を主体的かつ継続的に履修し得る適性を有する者を判定いたします。

併せて、本学部が求める、社会・自然・人間に対する誠実な姿勢、協調性および円滑なコミュニケーション能力を備えているかを確認し、将来にわたり専門領域の進展に寄与し得る創造的態度を持つ受験生を選抜いたします。

[高校の学習で大切にしたいこと]

1. よく見て、よく考える習慣を育てること

日常の何気ないものでも、「どうしてこう見えるのだろう？」「どんな形をしているのだろう？」と丁寧に観察する力は、表現の大きな土台になります。スケッチや作品制作だけでなく、授業や生活の中でも“気づき”を大切にしてみてください。

2. 自分で課題を見つけ、工夫して取り組む姿勢を持つこと

美術やデザインの学びは、答えがひとつではありません。うまくいかなかったときほど、「どうすれば良くなるかな？」と考えることが力になります。試行錯誤を楽しみながら、学びや制作に前向きに挑戦する気持ちを大切にしてください。

3. 人とのつながりや社会へのまなざしを大切にすること

作品をつくるうえで、他者への思いやりや社会への関心は大切な要素です。友人との話し合いや共同作業でのコミュニケーション、社会や自然への興味など、日々の経験すべてが表現

の源になります。他者の意見を聞き、自分の考えを伝える力も、大学での学びにつながっていきます。

[2026年度 出題内容・出題形式・合計得点・試験時間]

出題内容	出題形式	合計得点	試験時間
I 前期・「手と配布されたモチーフを自由に構成し、デッサンしなさい」	デッサン	各日程 100 点	各日程 300 分
II 中期・「与えられたモチーフを自由に配置し、デッサンしなさい」			
III 後期・「与えられた紙袋（クラフト紙素材）と 1 点以上のモチーフを その中に入れた状態にして、その様子を描写しなさい」 (モチーフ：クラフト紙袋・バゲット)			

[出題の意図]

I 前期日程

【課題：「手と配布されたモチーフを自由に構成し、デッサンしなさい」】

1. 評価したい力

本課題では、対象を丁寧に観察し、形・質感・空間を正確に捉える基礎的な描写力を評価いたします。また、手とモチーフの関係性を自らの判断で構成する過程において、主体的に課題に向き合う姿勢や、物事を多角的に捉える造形的思考力を重視いたします。

さらに、アドミッションポリシーに掲げる「課題発見・問題解決能力」や「対象への真摯な姿勢」を持ち、自ら表現の方向性を組み立てる力を評価いたします。

2. 問題のねらい

本課題は、観察に基づいた確かな描写と、構成要素を適切に組み合わせる判断力をみることをねらいとしております。与えられた要素をどのように配置し、画面として成立させるかという構成力を問うとともに、骨格や筋肉の形態理解・プロポーション・陰影表現など、美術の基礎的技能を総合的に活用できているかを確認することを目的としております。また、制約の中で自ら発想を展開する柔軟さも重要な観点として評価いたします。

3. 大学の学びとの関連

本学部の専門教育において、実際の対象を深く観察し、そこから得られた情報を自身の表現へと転換する力は、すべての実技科目の基盤となります。本課題は、描写力・構成力・問題解決的思考など、大学での高度な造形表現を学ぶために不可欠な基礎を確認する出題です。また、専門領域における創作・デザイン・研究活動へ主体的に取り組むための姿勢が備わっているかを判断する意図も含んでおります。

II 中期日程

【課題：「与えられたモチーフを自由に配置し、デッサンしなさい」】

1. 評価したい力

本課題では、モチーフを注意深く観察し、その形態や質感、光と影、空間的な関係を正確に捉える観察力と描写力を評価いたします。また、与えられたモチーフをどのように配置し、一つの画面として構成するかという主体的な判断力や造形的思考力も重視いたします。さらに、アドミッション・ポリシーに掲げられた「人間や社会に対して真摯に向かい合う姿勢」や「学ぶ意欲」を基盤として、対象を丁寧に見つめ、自ら考えながら課題に取り組む姿勢や資質を確認いたします。

2. 問題のねらい

本課題のねらいは、卓上静物を構成する過程を通して、立体の構造や空間の把握、質感の違いを観察に基づいて適切に表現できるかを確認することにあります。ティッシュの箱、りんご、ペットボトルという形態や素材の異なる三つのモチーフを自由に配置することで、受験者がどのような視点で対象を捉え、画面全体の構成や視線の流れを考えて造形することができるかを評価します。単なる再現にとどまらず、観察した情報を整理し、自らの判断によって魅力ある画面を構築する力を重視いたします。

3. 大学の学びとの関連

静物デッサンは、造形表現の基礎となる観察力、形態把握力、構成力、描写力を養う重要な学習です。大学における専門教育では、絵画制作をはじめ、デザインや立体造形などあらゆる分野において、「対象を深く観察し、自ら考え、構成し、表現する力」が求められます。本課題は、その基礎となる主体的な探究心と造形的思考力を確認するとともに、今後の専門的な学修や創作活動に必要な根幹的能力を測るための出題です。

Ⅲ 後期日程

【課題：「与えられた紙袋（クラフト紙素材）と1点以上のモチーフをその中に入れた状態にして、その様子を描写しなさい」（モチーフ：クラフト紙袋・バケット）】

1. 評価したい力

本課題では、モチーフの形態や質感、光と影の関係を丁寧に観察し、それらを的確に描写する観察力と表現力を評価いたします。また、紙袋の中にモチーフを配置することで生まれる前後関係や空間性を理解し、一つの画面として構成する造形的思考力や主体的な判断力を重視いたします。さらに、アドミSSION・ポリシーに掲げる「課題発見・問題解決能力」および「多様化する領域に挑戦する姿勢」に照らし、与えられた条件を的確に読み取り、自ら考えながら課題に取り組む姿勢や資質を確認いたします

2. 問題のねらい

本課題のねらいは、クラフト紙袋とバケットという素材や形態の異なるモチーフを観察し、それぞれの特徴や相互の関係を理解したうえで、画面上に適切な空間を構成する力を測ることにあります。紙袋にモチーフを入れた状態を描写することで、物体同士の重なりや奥行き、質感の違い、光によって生じる陰影などを総合的に捉える力を確認いたします。また、限られた条件の中で視点や構図を主体的に選択し、観察した情報を整理して画面全体を構築する力も重要な評価の対象となります。

3. 大学の学びとの関連

静物デッサンは、観察力、形態把握力、構成力、描写力など、美術・デザインのあらゆる専門分野の基礎となる重要な学習です。特に、異なる素材や形態が生み出す空間や関係性を理解し、それを的確に表現する力は、絵画制作のみならず、立体造形やデザイン、映像表現など多様な領域において求められます。本課題は、観察と判断を繰り返しながら画面を組み立てる思考過程を通して、大学での実技・研究・制作に必要な基礎的な造形能力を確認するとともに、主体的な探究心と表現への意欲を測ることを目的として出題しております。